

今純三の銅版画の連作「小品集」について

對馬恵美子¹⁾

Report on a series of copperplate prints, "Syuhinsyu(small work)" by Kon Jyunzo

Emiko TSUSHIMA

Key words : 今純三、今和次郎、連作、小品集

はじめに

今純三（弘前市生まれ、明治26年～昭和19年）に関しては、本県の洋画、版画界に多大な貢献をなした作家として、当館でも今年度を含めて、2回の特別展²⁾、1回の企画展³⁾を開催してきた。今純三の銅版画による連作は、青森県画譜、八甲田・奥入瀬溪流⁴⁾、小品集の三つがあげられるが、今回はそのうちの小品集について考察するものである。

小品集は、純三が青森市に在住していた昭和10年11月26日から、純三とその家族が東京に移り住むまで年の昭和14年2月28日までの間に制作された。小品集は、純三が独学で取り組んできた銅版画の技法で印刷し、絵はがきとして使用できるようになっていて、3枚一組として、やはり銅版画で印刷された封筒に入れられて販売されていた。封筒には、その集のまとめのタイトルと一葉ごとの画題の他に、絵や図あるいは解説が書かれている。

小品集が36集よりなるものと一般に思われてきた大きな根拠としては、純三の没後の昭和46年に、今純三遺作復刻刊行委員会より復刻刊行された「復刻 今純三小品集」の箱入りタイプおよび、昭和56年には、同委員会より画集形式タイプの内容が、どちらも36集までの掲載となっていることであろう。

この、「小品集は36集までの発行」という説に、疑問が生じたのは、平成4年度に開催した特別展「日本近代銅版画と今純三展」の調査によってである。つまり、この時調査した工学院大学図書館が所蔵する純三の兄・今和次郎の資料の中に、36集以降の小品集が2集分発見されたことから、小品集は36集以降も継続されていたことが明らかとなったのである。では、いったい何集まで続いたのであろうか。以下、この問いを解決できる資料が、いくつか見つかったので紹介する。

36集以降の小品集に関わる情報について

1・工学院大学図書館所蔵の今和次郎に関する資料

工学院大学図書館には、今和次郎の遺族から一括寄贈された膨大な資料が所蔵されている。その中には、純三が兄に送付した手紙、葉書や銅版画の作品があり、その中に、小品集の43集と47集が確認された。その題名等については別表を参照されたい。

2・佐藤米次郎が発行した版画誌（発行年不明 推定昭和27年頃）『青い森1』

同版画誌に掲載されている武藤完一の随想「今純三氏の思い出」の中に次の記載がある。
「処で今さんの小品集も合計四十八集、百四十四枚に達している。（昭和十年十一月から十六年三月まで）これを私は一枚ずつ貼付けて大きな画帳にしているが、時々友人が来ると見せては今さんの仕事をなつかしくも思い出している。私の秘蔵の一冊である。（一九五二．四．九）」

武藤がこの随想を書いた昭和27年頃（推定年）には、純三は既に死去していることから、武藤は、今純三の最終号まで所持していたと思われる。このことから48集が小品集の最終号と推定される。

3・復刻版『エッチング』

『エッチング』を創刊した西田武雄は、大正7年に本郷絵画研究所で、純三と出会っている。西田は機関誌の発行の他に、室内社画堂と日本エッチング研究所を設立、学校教育の現場や専門家相手に講習会を開催するなど、銅版画の普及に多大な貢献をした。機関誌『エッチング』は、大B5版の月刊誌で、第1号は4頁で昭和7年11月15日に、一千部発行された。最盛期には2千5百部まで増えている。昭和18年に戦時下で雑誌が統廃合され同年7月15日発行の第126号より「日本版画」と改称。昭和19年2月まで、133号が発行された。純三は『エッチング』誌に、34回執筆している。

1) 青森県立郷土館 副参事（〒030-0802 青森市本町二丁目 8-14）

2) 平成4年度開催、特別展「日本近代銅版画と今純三展」、平成14年開催「今純三・今和次郎展—ふたりが描いた大正・昭和のくらしと風景」

3) 平成23年度開催、企画展「今純三と考現学展」

4) 平成10年 青森県立郷土館調査研究年報第22号 對馬恵美子 今純三「エッチング奥入瀬溪流連作考」参照

昭和12年5月から、銅版画の技法をわかりやすく説明した「私のエッチング技法」を連載。これをもとに、昭和17年に『版画の新技法』を著した。この『エッチング』に関係者の近況や、制作状況などが掲載される情報欄があり、その中に、純三の37集以降の小品集に関する記事が以下の3件あった。ただし、封筒に付けられた大きな題名のみで、絵葉書3葉の個々の題名は不明である。

『エッチング』 p 1430 昭和15年3月号 「第38集 街頭のスケッチ」

『エッチング』 p 1454 昭和15年5月号 「第39集 猿の空橋」

『エッチング』 p 1520 昭和15年12月号 「第44集 露店風景」

4・個人所用の小品集

個人で所有されている小品集第40集がある。その題名等については別表を参照されたい。

5・郷土館所蔵資料

当館所蔵の純三の収蔵資料の中に、純三が銅版画、石版画の制作で使用した原版がある。その原版の中に、小品集第48集の袋に使用した原版があった。その題名等については別表を参照されたい。

まとめ

上記の情報をまとめたのが、別表である。これにより、純三は東京に転居した後も小品集の発行を継続し、それは昭和16年3月の48集まで続いたことがわかった。また、不明部分の12集分のうち、全く情報がないものは5集分のみとなった。判明した部分から、純三は東京に住むようになって、青森県に関するテーマで制作を続けていたと思われる。

最後に、この後、小品集の不明部分を埋めるべく、新たな情報が得られる事を、できうるならば37集以降の小品集そのものが発見されることを、切に願うものである。小品集は純三が苦心の末たどりついた銅版画、石版画の集大成である。実際にその作品を観たならば、銅版画ならではの美しく緻密な世界を、さらに純三の美に対する誠実さと情熱を感じずにはいられないであろうから。

＜表＞ 37 集以降の小品集一覧

集	封筒の題名	絵葉書の題名	制作年	所蔵先など
37		1 2 3		
38	街頭のスケッチ	1 2 3		『エッチング』p1430 昭和15年3月号
39	猿の空橋	1 2 3		『エッチング』p1454 昭和15年5月号
40	太平洋を望む風景	1 昭和八年の海嘯災記念碑(三沢) 2 丘の上の半鐘(同上) 3 波打ぎはに遊ぶ子供		個人
41		1 2 3		
42		1 2 3		
43	農村風俗(南部地方の農婦)	1 種まき 2 黍とり 3 バオリを冠った女	昭和15・2・22	工学院大学図書館
44	露店風景	1 2 3		『エッチング』p1520 昭和15年12月号
45		1 2 3		
46	銅像図絵	1 御料馬花鳥号銅像 2 津軽の藩祖為信公銅像 3 雪中行軍遭難記念銅像	昭和16・2・22	工学院大学図書館
47		1 2 3		
48	郷土玩具 オボコの人形	1 コケシとエチコオボコ 2 アネサマとオボコ 3 ナガオボコ、アダコ其他	昭和16・3・25	青森県立郷土館